# 令和５年度　道徳科　研究のまとめ

木村　純也

## １．研究会等で明らかになった教科等の資質能力の具体

（１）小学校　複式高学年「絆を深めるとは何か」

| 資質能力 | 児童・生徒の姿 | 手立て | キーワード |
|---|---|---|---|
| 授業構想力 | ○単元の終末時に，直前の複数時間の内容を加味して自分の考えを記述する。 | ・単元の学習課題を示すとともに，近接した時期に複数時間行う。 | ・学習と課題とのつながり |
| | ●「問題解決」を実感することができる課題であったか。 | ・学級目標と社会正義との関係性を児童は意識しにくかったか。 | ・学習と課題とのつながり |
| 授業実践力 | ○児童の相互指名を中心として意見交流が行われる。 | ・道徳科以外の教科での学習スタイル（見守り型）を取り入れる。 | ・関わりへの支援 |
| | ○教師の問いかけについて考える。 | ・児童の考え方に誤りが出たり，深まりを予見させたりするときに発問をする。 | ・視点の明確化 |
| | ○複数の立場でハンセン病問題について考ている。 | ・立場の違いを意識して，意見のつながりや差異を図式化した板書。 | ・理解の深まり |
| 授業分析・評価力 | ○15 人中 15 人の児童の記述が ICE ルーブリックに該当する。 | ・ふり返りの意味や道徳科の学びの意味を日々伝える。 | ・日常生活と学習内容の関連 |

## ２．研究についての考察

表１　道徳科本来の魅力に迫るための教師の資質能力

| 資質能力 | 道徳科が考える「教師の資質能力」の具体 |
|---|---|
| 授業構想力 | ①様々な教育活動を意識して，問題解決的な学習過程を構想する力（目標設定）<br>②子どもの発達段階に即して，道徳的価値を解釈する力（教材研究） |
| 授業実践力 | ③認知面と情意面に触れながら，個人内の価値判断をゆさぶる力<br>④子どもの心が動いた背景を探り，価値理解につなげる力<br>⑤効果的に対話的な活動を取り入れる力<br>⑥教材を通した学びを実生活へ接続する力<br>⑦児童実態（学年差を含む）に応じて価値理解への支援をする力 |
| 授業分析・評価力 | ⑧ねらいに照らして子どもたちの記述内容を，質的分類をする力<br>⑨必要に応じて，複数の評価材（評価方法）を併用する力 |

表 1 は，道徳科本来の魅力に迫るための教師の資質能力をまとめたものである。これは昨年度までに整理した内容と変更はない。丸数字は後の論のために便宜的につけているためのものである。

（1）授業構想力について

本年度は，学級目標の「絆」をキーワードとして単元の学習課題を設定した。この学級目標に迫る内容項目として「友情，信頼」「公正・公平，社会正義」を取り扱った。研究会当日の授業では，今もなお差別や偏見で心を痛めている方がいるハンセン病問題を取り上げた。児童全員の振り返りをルーブリック類型に分類することができたので，内容項目に迫ることができたが，単元の学習課題とハンセン病問題が乖離しており，その関連性を意識できた児童は少ない。その一方で，総合的な学習での福祉教育を同時期に進めていた。障害を持つ人でも使いやすい街の施設についての理解を踏まえて，社会正義について考えている児童もいた。やはり，①の視点は大切であると考える。

（2）授業実践力について

複式高学年の児童は，東雲小学校が長年取り組む「見守り型学習」を積み重ねている。そのため，学習リーダーを中心として相互指名で意見交流を行った。これは⑤に由来する。必ずしも相互指名がよいわけではなく，学級実態に応じて効果的な方法を取り入れることが大切である。同時に，教師からの介入もタイミングをはかり，児童の理解が誤っているときや対話の必然性が生まれたときに働きかけている。対話の必然性とは③や④の力に付随して見極める。

（3）授業分析・評価力について

当日出席した児童全員の記述を ICE ルーブリックの類型に分類することができた。この類型は事前に定めていたが，ここには⑧の力が振るわれているといえる。学習のねらいを見定めた授業実践があってこそ，児童は学びを深める。全員がいずれかに分類されたことは，授業実践力（③～⑦）も有効的に機能したと言ってもよい。

| 成果 | 課題 |
|---|---|
| ・複式学級において「見守り型学習」が道徳科でも学びを深めることが可能であることが分かった。（ただし，「見守り型学習」が必ずしも望ましいわけではなく，児童実態に応じた学習方法・対話形式が重要であることを意味する。）<br><br>・課題解決的単元型学習の考え方は，児童の学びの連続性を保つことにつながる。 | ・本時レベルで言えば，学習内容と単元の学習課題の関連性を意識する児童はいなかった。しかし，本時の学習内容について悩んだり迷ったりしている気持ちを記述する児童もいた。長期的な視点（道徳教育の立場）で考えると，本時の学習は決して無益はない。児童の価値判断の材料の一つとなること期待する。 |